

【護衛艦隊司令官挨拶】

海将 福田 達也



昨年12月22日に第41代護衛艦隊司令官を拝命しました福田です。掃海隊群司令から着任しましたので、船越の海上作戦センター内の同じフロアでの転勤であり、その距離は、私の歩幅でわずか15歩という極めて短距離での異動となりました。護衛艦隊は、護衛艦、補給艦、訓練支援艦とこれらの作戦等を支援する部隊で編成される1万名を超える部隊であります。歴史と伝統を受け継ぐ護衛艦隊に



着任し、光栄に思うとともに、その重責を日々感じているところであります。

横須賀水交会の皆様には、艦艇部隊の行動等に際しての壮行、激励等をはじめ、様々な行事において多大な御支援を賜り、心より御礼申し上げます。その一方で、新型コロナウイルスの影響により、我々が主催しなければならぬ行事等も大幅に減り、皆様との交流の機会が減っていることを大変申し訳なく思っております。

さて、護衛艦隊は、昨年の9月に創設60周年を迎えましたが、この60年の間に、護衛艦隊が担う任務とその活動海域は大幅に拡大しています。我が国周辺海域では、平素から実施している通常の警戒監視に加え、2018年から、諸外国海軍等と協力して、国連安保理決議で禁止さ

発行 令和4年4月11日(月)
編集 横須賀水交会事務局

れている北朝鮮船舶との物資の積み替え、いわゆる「瀬取り」に対する監視も実施しています。また、海外では、国連平和維持活動や国際緊急援助活動、さらにはソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動や中東地域における日本関係船舶の安全確保のための情報収集にも護衛艦等が従事しています。また、2018年から、ヘリコプター搭載護衛艦等が実施する年1回の「インド太平洋方面派遣訓練」が定例化し、政府が推進する「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンを具現するミッションも護衛艦隊が担っているといっても過言ではない状況になっていきます。「令和」という新たな時代が幕を開けた今、このような幅広い任務に柔軟に対応するため、我々護衛艦隊は、更なる進化を遂げる時期に來ていると認識しています。「令和の時代に相応しい護衛艦隊」を創り上げるため、

私は、着任以来、次の2点に重点を置いて職務を遂行しております。

その第一は「精強・即応」です。これは、言うまでもなく海上自衛隊創設以来、連綿と受け継がれてきた海上防衛に任ずる海上 (次頁に続く)

横須賀水交会主要行事予定

令和4年10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交会HP (<http://y-suikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 海軍の碑記念行事

5月27日(金) 11時30分

2 馬門山海軍墓地墓前祭

中止

3 4年度総会・講演会

6月2日(木)

総会 15時

講演会 16時20分

懇親会 18時

4 靖国神社月例参拝

6月の参加は中止

5 横須賀夏季防衛講座

8月20日(土)で計画中。

自衛隊という組織の本質であり
ます。周辺国による軍事力の強
化並びに軍事活動の活発化は留
まるところを知らず、我が国を
取り巻く安全保障環境は一層厳
しさを増しています。

このような情勢の下、あらゆ
る事態に実効的かつ機動的に対
応するために、我々護衛艦隊に
は、これまで以上の精強性と即
応性が求められています。精強
な部隊としての練度を維持し、
その即応性を向上させるために
は、不断の努力が不可欠である
ことを肝に銘じ、その努力を決
して怠らないという気概をもつ
て部隊の錬成に努めてまいりま
す。

その第二は「意識改革・創意工
夫」です。前述のとおり、過酷さ
を増す安全保障環境を受けて、
我々の任務や活動の内容も劇的
に変容しています。このような
状況の下、あらゆる事態に柔軟
かつ適正に対応していくために
は、既成概念にとらわれない「意
識改革」が必要です。また、防衛
予算や人的資源が非常に厳しい

現下の情勢において、我々に与
えられた任務を確実に遂行する
ためには、限られた資源の中で
我々の持てる能力を最大限に高
めていく「創意工夫」が必要です。
常に問題意識を持ち、既成概念
にとらわれない「意識改革」によ
り、そして、これまで以上に「創
意工夫」を凝らすことにより、
「令和の時代に相応しい護衛艦
隊」を創り上げていきます。

今後も皆様の負託に応えるこ
とができるよう任務に邁進する
所存でありますので、尚一層の
御支援と御協力を賜りますよう
お願い申し上げます。結びに横
須賀水交會の益々の御発展と会
員の皆様の御健勝と御多幸を心
から祈念いたします。



護衛艦くまの

【特別寄稿】

今回は、韓国海軍将校出身で、
拓殖大学主任研究員等を務めら
れている高 永喆氏にTV報道
番組のコメンテーター、執筆活動
等で大変お忙しい中、寄稿して
頂きました。(編集担当)

『私が日本に憧れはまったわけ』

「日本の底力」

拓殖大学主任研究員・
元韓国国防省分析官

高 永喆



筆者は海軍将校の時、国防省
北朝鮮分析官を終えて1992
年には日本担当官に在職しなが
ら日韓防衛交流事業を推進した
事がある。

さて、1993年、金泳三大統

領が就任するや、前政権を軍部
独裁政権と、でっち上げ、大掛か
りな軍部粛正を行なった。

多数の将校が小さな誤りで逮
捕される中、軍出身大統領二人
も拘束された。当時、筆者も日本
特派員に軍事秘密を漏洩したと
言う罪で拘束された。

その後、私が日本特派員と交
わした情報は新聞、軍事雑誌に
公開された資料と言う事が分か
り、金大中政権の特赦・複権を受
けた。

私は韓国で親日派・裏切り者
扱いされ、立場のない本国を離
れざるを得なくなった。

韓国は政権が変わったら前政
権に対する政治報復が行われ、
歴代大統領が亡命、暗殺、自殺、
服役する悪循環が繰り返される。
特に、歴代政権は支持率が落ち
たら必ず反日感情を煽って内部
結束と支持率を高める事例が多
い。

筆者も結局、政治報復と反日
感情に巻き込まれたわけである
さて、韓国は建前では反日だが
本音では日本大好きと言う矛盾

が目立つ。

因みに、金泳三大統領は朝鮮総督府建物を壊したが、日帝時代の日本人恩師の孫を青瓦台に招待し恩返しした。文在寅大統領も表は反日だが、奥さんは釜山の茶道学校に通ったり、娘は日本の大学に留学しており息子は日本マニアである。

本論に入って筆者が日本に憧れ、日本にはまった理由を述べたい。

筆者は少尉、中尉の時、駆逐艦作戦将校をはじめ海上勤務を終えて大尉の時は海軍基地長に赴任した。

当時、基地の図書室本棚で『国運』（「坂の上の雲」韓国語版）を見つけ、徹夜で興味深く読んで私は人生観が変わるほど感銘を受けた。『二冊の本が人生を変える』と言う事を自ら体験した訳だ。その後、領官将校(佐官)の時、海軍大学入学試験に合格した筆者は在学中、日露戦争と太平洋戦争を研究しながら日本の底力に魅了された。

「日本の底力と強み」

1945年、原爆被害を浴びた広島、長崎は100年間、人間が住めない不毛地帯だろうと言われた。

さらに、東京と全国の市、町、村433か所が大空襲被害を受けたが急ピッチで戦後復興作業が始まり、今日は新都市・公園環境に変貌した。日本の先端建築・産業技術は復興作業に拍車を掛ける底力となった。

因みに、韓国も戦後、朝鮮戦争が勃発、戦火に見舞われたが、戦後復興モデルとして日本を真似して日本式の成長政策を推進した。

1965年、朴正熙大統領は日韓国交を採決、日本式の経済成長を成し遂げた。

当時、韓国は日本の技術と資本提供のお陰で日本と同じく製鉄、高速道路、造船、自動車など「重工業育成」と「輸出ドライブ政策」を推進した。それが、貧しい韓国の経済成長に拍車を掛ける牽引車となった。

「日本の底力の根拠」

世界経済を動かす4大柱は依然として米国、日本、EU、中国である。『灯台下暗し』と言う諺のように日本は自国の底力を認識してない。ここで、筆者が客観的に日本の底力を取り上げたい。まず、日本の電気・電子製品をはじめ自動車、造船、産業ロボット、光学・精密機器技術は世界トップを誇っている。

韓国と中国製品の輸出が伸びるのは、その根底に日本の核心技术、素材、精密部品の生産設備インフラがある。さらに、アメリカの先端防衛産業、宇宙・航空産業においても日本の精密部品と素材、核心技术が採用されている。高速列車も「事故率0」の正確性、安全性及び世界一速度を誇るのは新幹線だけである。中国の高速列車も日本が提供した新幹線技術のお陰である。

2番目、日本が世界トップの技術力を誇る背景には日本人特有の探究心が根底にある。

日本の至る所で見られる「勉強会」、「同好会」及び「研究会」は

深い探究力の現れである。日本はノーベル賞を26人も受賞しており、中国は3人程度、韓国は1人しかいない。

3番目の底力は強い求心力である。1945年8月14日、終戦を迎え、天皇の無条件降伏放送が流されると前職首相を含め500名が天皇宮前で自決した。これこそ、日本ならではの求心力の表れである。

因みに、筆者が海軍大学在学中、先輩教官から聞いた話がある。「太平洋戦争で沈没した米軍潜水艦や軍艦を引き上げると米軍乗組員の屍骸はバラバラに分散されているが、日本軍乗組員の屍骸は皆自分の元位置で最後を迎えた」と言われた。特に、旧日本軍、小野田少尉と横井昇一兵士はルバン島とグアム島で29年間も長期間、頑張った軍人精神の証である。

4番目の底力は情報力である。現代医学技術の象徴である「内視鏡」は日本人ならではの賢い情報センスが生んだ発明である。日露戦争当時、ロシア駐在武

官、明石元次郎大佐はレーニンなど反政府人事らに反戦サボタジを呼び掛ける情報心理戦を展開し日本の勝利に大きく貢献した。

日本は13世紀、モンゴル帝国の2回侵攻を破り、近代、日清戦争と日露戦争で大勝利を果たした。やむを得ず日米戦争に巻き込まれ敗戦を余儀なくされたが、日本は世界4大強国と戦って3連勝した国柄である。

最後に、今日の「日米同盟」と「米韓同盟」は地域平和と安保を支える二本柱であり、日、米、韓は共同運命体である。遠い強大国と同盟して隣の強大国を牽制する「遠交近攻」こそ、安保の鉄則である事を再認識しながら拙筆に代えさせて頂きたい。

高永喆氏 紹介

- ・大韓民国全羅南道生まれ。
- ・1975年、大学卒業後、海軍将校任官、海軍大学(正規18期)卒業
- ・米国防情報学校校修了(兆候分析…短期教育)

・渡日以降、拓殖大学大学院博士前期課程修了(安全保障専攻)
・現役時代一線部隊の指揮官、参謀を務めた後、海軍士官学校及び国立海洋大学ROTC教官を務めた

・1989年、韓国国防省情報本部に異動となり北朝鮮情報分析官後、日本担当官(防衛交流)を務める。当時、高氏は、日韓軍艦親善訪問、情報交流、人事交流など両国防衛交流推進の実務担当官メンバーとなる。

・1993年、金泳三が大統領に就任し、32年間続いた軍事政権から文民政権へと変わる。この時高氏は、全斗煥、盧泰愚前大統領逮捕及び軍部叩きに巻き込まれ、軍事秘密を漏洩した容疑で逮捕、拘束。その後、金大中大統領の赦免、復権を受けた。

主な著書

- ・『国家情報戦略』(2007年7月、講談社)
- ・佐藤優(外交官) 共著 『インテリジェンス戦争』(2009年、大和書房) 佐藤優共著。

・『亡国のインテリジェンス』(2010年6月、文芸社)
 飯野忠男 編著 対談集。
・『韓国左派の陰謀と北朝鮮の撩乱』(2017年4月、KKベストセラーズ)

佐藤優(元外交官)共著



【横須賀散歩】

火 猿

横須賀散歩(7)…『ゴジラ海岸』 京急「浦賀駅」の電車接近メロデーは「ゴジラのテーマ」です。この浦賀駅の東方にある「たたら浜」は、かつて「ゴジラ海岸」と呼ばれていました。

昭和29～1954年、東宝により公開された映画「ゴジラ」では、『観音崎北東の海中を北西に向け移動中のゴジラを発見』京浜地区に警戒警報が流れ、ゴジラはこの浜に上陸しました。浜には「ゴジラの滑り台」がありましたが、昭和48～1973年に取壊されました。今ではゴジラの足跡が残るのみです。



たたら浜／ゴジラ海岸



「くりはま花の国」



ゴジラの足跡

その後、「ゴジラの滑り台」で遊んだ思い出を持つ横須賀商工会議所青年部員が署名と募金活動を実施し、平成11～1999年11月に、ゴジラの滑り台は「くりはま花の国」で復活しました。

【参加行事等紹介】

1 笑顔を運んできた

「ゆうぎり」帰国行事

令和3年も残り少なくなつた12月19日、横須賀港吉倉岸壁において、第39次派遣海賊対処行動水上部隊「ゆうぎり」の帰国行事が執り行われました。「ゆうぎり」はコロナ感染が拡大していた6月5日に横須賀を出港し、港外において感染防止措置を行った後、7月22日から約4か月間ソマリア沖・アデン湾において航行船舶の直接護衛や区域防護活動に従事しました。11月下旬に任務を完遂し、以後の活動を「ゆうだち」に申し継いだ後、各国海軍との共同訓練を行いながら日本を目指し、半年ぶりに母港の横須賀に帰ってきました。入港当日は朝から快晴で、青空を背に徐々にその姿を大きくする「ゆうぎり」に、この日を待ち望んできた乗員家族の皆様からは、はち切れんばかりの笑顔と共に1オクターブ高い歓声が上がっていました。

一方で、昨年春にコロナ感染が急拡大した以降は、この種行事は海自隊員だけで実施されてきましたが、年末になり感染がやや治まってきたことから今回初めてご家族や部外来賓をお呼びできるようになり、行事を執行されている総監部の皆さんの顔にも笑顔が浮かんでいたように感じられました。

行事は熊代艦長の整齊とした帰国報告で開始され、岩本防衛大臣政務官から「ゆうぎり」に対する総理大臣特別賞状の伝達並びに艦長に対する1級賞詞の授与が伝達されました。続いて湯浅自衛艦隊司令官から「ゆうぎり」の佐々木先任伍長に対して統合幕僚長からの3級賞詞の伝達が行われましたが、このような行事の中で先任伍長の功績が披露されたのは初めてのことで、はなかつたかと思えます。

政務官の訓示では、海上交通の大動脈である同海域の安全確保に寄与した功績と、「ゆうぎり」として4回目となる中東派遣に加え、コロナの影響で寄港地に

おける行動が制約されてしまった乗員に対する労いの言葉が述べられました。

自衛艦隊司令官からは、5回の直接護衛と99日間の区域防護によるシーレーンの安全確保、並びに各国海軍との共同訓練を通して国内外の信頼を高めたことへの称賛の言葉が述べられた後、正月は家族の皆様とゆっくり休んで次なる任務に備えて欲しい旨の訓示がありました。

上地横須賀市長からは、長期間の任務に対する労いの言葉と横須賀市はこれからも海自をしつかり支えていくという心強い祝辞がありました。

最後に行事に参列された海上保安庁瀬口保安監、廣川第三管区保安本部長や地元自治体の議員の皆様等から乗員に対して温かい言葉が贈られ、帰国行事は滞りなく終了しました。

行事終了後、「ゆうぎり」甲板士官の「かかれ!」の号令とともに家族の元に駆け寄って子供を抱き上げたり、写真に納まる笑顔いっぱい隊員の姿に「愛す

る人を守る気持ちで国を護る原点になつてゐるなあ！」と久し振りに和んだ気持ちで岸壁を後にすることができました。

(永田 美喜夫 会長 記)



2 海上自衛隊横須賀教育隊

修業式に1年9か月振りに

横須賀水交會会長参加

横須賀水交會では、令和3年12月20日(月)新型コロナウイルス対応のためしばらく部内のみで実施されていた横須賀教育隊での修業式に参列し、会長が激励賞を授与しました。

久方振りに、部外者を招待した教育隊では、参列者のマスク着用、アルコール除菌はもちろん、体育館のドア、窓を開放して換気を実施するとともに修業生の整列間隔を開ける等の徹底した感染対策を施して式典を実施していました。

横須賀水交會から第135期初任海曹課程(79名)、成績優秀者1名に、横須賀防衛協会から11期海曹予定者課程(152名)、成績優秀者1名に表彰状及び記念品を贈呈しました。

寺田教育隊司令は、コロナ対策への努力とその結果としての感染防止の結果を讃えるとともに、これからの勤務において誠実な部下指導に努めるよう諭し、

酒井総監からは同期をライバルとして切磋琢磨し、士気の根源、プロフェッショナルとして、これからの変革の時代に積極的にチャレンジすることを求めました。

当日は、雲1つない快晴で、相模湾に臨む雪化粧の富士山を背景にした修業生のはつらつとした行進を見送り行事を終了しました。

また、令和4年3月25日(金)第132期初任海曹課程の修業式においても、成績優秀者1名に対し、会長から表彰状及び記念品を贈呈しました。

令和3年度には、このほかに8月26日(木)に第16期海曹予定者課程修業式、8月27日(金)には第377期練習員、第66期練習員(女性)課程修業式が実施されましたが、コロナ禍、部内のみでの式典となり、水交會激励賞は教育隊司令による代理授与となりました。

今回、以下の方々が表彰されました。

第16期一般海曹候補生課程

2等海士 福留 誠一

(ふくとめ せいいち)

2等海士 國久 結希乃

(くにひさ ひきのの)

第377期練習員課程

2等海士 川田 大夢

(かわた ひろむ)

第66期練習員(女性)課程

2等海士 宇賀神 百可

(うかじん ももか)

第135期初任海曹課程

3等海曹 海保 優希

(かいほ ゆうき)

第136期初任海曹課程

3等海曹 鎌田 菜々子

(かまだ ななこ)

コロナ禍で、制約と我慢の多い学生生活を余儀なくされたと思いますがそれが故に同期の絆が深まったことと思います。今後は部隊において更なる研鑽を積み、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交會一同祈念するとともにこのような活動が次世代を担う海上自衛官及び参列の各級指揮官に対して

水交會の理解の一助となれば幸いです。
(吉岡 俊一 幹事 記)



第135期初任海曹課程
海保 優希 3曹



1年9か月振りの来賓、家族を招いての式典
(ドア窓全開、間隔を開いて整列)

【トピックス】

2年振りに対面幹事会を開催

令和3年12月15日(水)横須賀水交會幹事会が、よこすか平安閣において開催されました。

横須賀水交會では四半期ごとに幹事会を開催してきましたが、コロナ感染症拡大の影響で令和2年冬以降はメールを使った非対面方式の幹事会で凌いできました。一方で対面方式の開催を望む声は日増しに大きくなっており、幹事長は今回の開催について大いに悩んでいました。幸いなことに11月頃から新規感染者数が低いレベルで維持され、海自の行事にも徐々に家族や部外者が参加できるようになってきていることから、意を決して対面方式による幹事会を開催することとしました。

冬の幹事会では終了後の懇親会は忘年会を兼ねており、例年は国会議員や市長、海自の主要指揮官も参加する盛大な会になっていました。終息宣言が出されていない状況で部外者に声を掛けるのは憚られるため万全の感染予防策を取って会員のみの懇親会として計画しました。幹事会の参加者数は会場収容率の制限ギリギリの約40名であり、テーブル席は放射状に設置されたアクリル板で仕切られ、参加者は全員マスク着用で幹事会に臨みました。



松下幹事長の議事進行で、新役員を紹介や実施事業の報告等が行われました。総会以降の自衛隊関係行事については、ほとんどが部内のみでの実施されており、水交會として参加できる

のは、12月19日の第39次派遣海賊対処水上部隊「ゆうぎり」帰国行事(団体の長のみ参照)及び12月20日の第128期公募海曹課程、第135期初任海曹課程及び第11期海曹予定者課程修業式(会長、吉岡常務幹事、事務局長出席)のみである旨の説明があり、会員の参加が可能になるにはもう少し時間が必要との見通しでした。

今幹事会の主要な議案については次の通り議決されました。

① 夏季防衛講座と賀詞交換の主幹事団体の見直し

これまで防衛講座と賀詞交換については横須賀隊友会と横須賀水交會が交互に主担当を受け持つことになっていましたが、担当幹事の負担軽減等を考慮して、夏季防衛講座は水交會が、賀詞交換は隊友会が担当することと了承を得ました。

② 役員再任に際しての意向確認

任期2年を経過した幹事について、これまでは本人の意向を確認することなく再任してきた

したが、令和4年度からは総会前に再任の意向を確認することです。了承を得ました。



終了後、同じ会場を使用して懇親会が開催されました。参加者は、久しぶりの懇親会とあって、マスクを着けていても分かるほど皆笑顔で一杯でした。

後日談：令和3年12月15日当日の新型コロナウイルス新規感染者数は、神奈川県16名、東京都29名、全国では175名でありましたが、年が明けるとオミクロン株による第6波が日本を襲い、1月末には新規感染者数が一日1万人を超えるようになりました。振り返って見ると12

月15日の幹事会開催は本当に千載一遇のチャンスだったのだと改めて松下幹事長以下会員皆様の強運に感謝する次第です。因みに幹事会参加者からは一人の感染者も出ておりません。

(石井 順 幹事 記)



【お知らせ】

1 横須賀水交會 全会員用

メーリングストについて

「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。つきましては、メーリングリストへの登録を希望される方は次の要領でご登録をお願いいたします。

① 登録用アドレス

memberlist_regist@y-suikokukai.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名：海尾護

(2) 会員番号：0174183

(3) メールアドレス

uniomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)

叙勲受章者(秋の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

1 令和3年秋の叙勲者

瑞宝小綬章・有働 賢三

瑞宝小綬章・齋藤 政行

2 危険業務従事叙勲

大島 互

藤田 慎一

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

11月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

辻 邦雄(3年11月16日)

谷津 憲治(3年11月20日)

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

令和3年10月〜令和4年2月次の方々で横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

編入・吉重はるみ(有志) (敬称略)

入会

渡部 友美(有志) 二木 祥一

(有志) 山本 博司(有志)

吉田 正人(有志) 杉江 敬(有志)

(志) 谷川 淳一郎(有志) 眞田

みどり(有志) 篠原 研司(技官)

梅津 理(事務官) 尾崎 仁美

(有志) 岡本 未央(有志) 近藤

千果羅(有志) 清水 俊成(有志)

柳田 一磨(有志) 加藤 彩子

(有志) 佐藤 正広(横教250)

宮脇 康弘(横教237) 渡辺

萌(有志) 中畑 康樹(幹候37) (桂 眞彦 幹事 記)